

第18号（2016年6月30日）
発行：「広島大学マスターズ広島」事務局

【目次】

1. 東千田未来創生センターにおけるマスターズの事業計画について
2. 教養教育「平和学」講師への参加のお願い
3. 平和科目講義に参加しての記
4. 『日韓留学生予備授業の担当者』の交代要員について（お願い）
5. 平成28年度広島大学マスターズ総会・懇親会に出席して
6. 第7回総会・懇親会の開催について（予告）

1. 東千田未来創生センターにおけるマスターズの事業計画について

東千田未来創生センター事業担当幹事 松水征夫

広島大学では、本会報第16号（昨年10月号）で紹介しましたように、霞地区で学ぶ医療系の学部学生の約400人の教養教育の場として、また現代の諸課題に対応した多様な教育・研究プロジェクトを展開する社会人教育の場として、東千田キャンパスを活用するために、「東千田未来創生センター」（地上4階建て）を建設されていましたが、本年3月28日（月）に、同センターの竣工記念式典を挙行政され、次の写真のようにテープカットが行われました。4月1日からセンターがオープンし、広島大学の医歯薬保健学関係の学部1年生の教養教育がすでに始まっています。



東千田未来創生センターは、医歯薬保健学関係の学部の1年生の教養教育を行うために、建設されたものですが、同センターの部屋の空き時間を利用して社会人大学院を開講することになり、昨年度学内で教育・研究プロジェクトの公募が行われ、東広島と広島のマスタースに対しても、共同で運営する教育・研究プロジェクトを提案するように求められ、われわれは退職した身なのですが、社会連携担当の理事・副学長から実施計画書を提案していただき、われわれが提案した『社会人大学院生のための教養科目（大学院共通授業科目）の開講』が10プロジェクト1つとして採択されました。



広島大学の大学院共通授業科目は、平成22年度から各研究科及び学内のセンター群が独自に、複数の研究科の大学院生が履修できる授業科目として提供されているものですが、われわれマスターズは東千田未来創生センターで開講される社会人大学院生のための「大学院共通授業科目」を提供することを考えています。同センターで開講される社会人大学院は、来年度から開講の予定ですので、マスターズが提供する授業科目につきましては、開講される社会人大学院の概要にふさわしい科目を本年度中に検討し、具体的な授業科目を決定する予定です。

広島と東広島のマスターズの会員の皆様には、これからなにとぞよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

広島大学マスターズ広島では、これまで東千田キャンパスの東千田総合校舎1階の共同教員室をお借りして、幹事会を開催していましたが、このたび東千田未来創生センターにおける事業計画が認められ、同センター4階のプロジェクトルーム（4-4号室）とミーティングルーム（4-6号室）の利用が認められたことで、ミーティングルームで幹事会を開催することが可能となりました。なお、プロジェクトルームは二つのプロジェクトの併用となっていますが、活動拠点が確保されたことを歓迎したいと思います。



写真A



写真B

広島大学マスターズ広島では、東千田未来創生センターでの初めての幹事会を、4月9日（土）にミーティングルーム（4-6号室）で、10人の幹事の出席のもとに開催しました。同日には、幹事会の開催前に、これまで東千田総合校舎1階の共同教員室に置かれていた本会の事務関係の機器・書類をミーティングルームに移動させました。真新しい部屋で、今後のマスターズ広島の活動を活性化するための方法などについて活発な議論をさせていただきました。写真Aは、幹事会の風景です。

今年3月に広島大学を定年退職された教職員で、広島市及び近郊にお住まいの方82名の名簿を、大学から提供していただいたので、4月23日（土）には、プロジェクトルーム（4-4号室）で、写真Bのように幹事4名が、本会へへの入会案内を新規退職者に郵送する作業を行いました。

2. 教養教育「平和科目」講師への参加のお願い

平和科目担当幹事 大杉 節

マスターズ広島のメンバーの皆様、教養教育「平和科目」の授業に講師として参加をお願いいたします

平和は失ったとき初めてありがたみが判るものなのか？平和を100%享受している私達は、それを維持するために必要な方策は何か？失う可能性を考える必要は感じないのか？ 平和を享受している我々こそ真剣に問題意識を持つべきではないでしょうか。

我々大学人は学生も教師も共に真剣に考えるべきと思います。教師は自分の長いキャリアの中で培った知識と経験をベースに、平和を考えるあるいは検討する材料を学生達に提供すべきです。それぞれの分野で研究者、教育者として何十年かの蓄積はどんな方面であれ深く極めた学識をもって若い学生に多面的な見方、考え方で平和にアプローチする方策を学生に提示できると考えます。あなたの見識を次世代を担う若者のために御尽力ください。

現在「平和と人間」と言う授業科目名で、東広島キャンパス（平和と人間-C）及び東千田キャンパス（平和と人間-D）で開講しております。来年度は霞キャンパスでも教養教育がはじまりますので我々広島マスターズも充分準備をして教育貢献をすべきと思います。

「平和科目」の一翼を担って長年培った見識で若い学生を導いてください。

現在は、教養教育科目の授業として「平和と人間-C（東広島キャンパス）」、「平和と人間-D（東千田キャンパス・夜学）」の2科目を8人のマスターズ広島メンバーが組、オムニバス形式で15週授業を分担しています。それぞれの教員が自分のキャリアを生かした方面から平和維持に必要な知識・考え方を提供しています。色々なバックグラウンドを持つ教員の多様な見解が特徴です。

皆様の積極的な参加を歓迎いたします。1日2時間の授業タイトルを決めて下記のフォームで登録をお願いいたします。教員資源リストを持っていないと科目継続もしくは新しい科目の開講を提案できませんので、多くの

皆様の参加意思表示をお待ちしております。

参考のために現在行っている授業「平和と人間」の授業計画を示しておきます。

- 第1回 授業の導入と概要説明。単位認定について
- 第2回 ナポレオン戦争とヨーロッパ I
- 第3回 ナポレオン戦争とヨーロッパ II
- 第4回 インドネシア日本軍政（1942～45年）をめぐって
- 第5回 黒い雨を考える
- 第6回 ある被爆体験
- 第7回 世界の紛争 I
- 第8回 世界の紛争 II
- 第9回 原爆を科学的に解析する
- 第10回 原発の安全と平和の条件
- 第11回 人工知能は平和を脅かすか
- 第12回 被爆資料とその総括
- 第13回 放射性部室は何を残すか I
- 第14回 放射性物質は何を残すか II
- 第15回 復興と被爆建物
- 第16回 期末試験

お名前：

授業タイトル名：

授業の概要及び必要かつ担当可能な授業時間：

28年度「平和と人間－C, D」授業担当 大杉 節

連絡先：_____

3. 平和科目講義に参加しての記

総務担当幹事 植村泰夫

6月20日(月)10時30分から12時まで、私は総合科学部 K103 教室で「平和と人間」授業の一コマとして、「インドネシア日本軍政(1942～45年)をめぐって」というテーマで講義をおこなった。文学研究科を退職して5年目で初めてこの講義に参加したのだが、実は現職の最後の数年間は「総合人間学講座」に所属して、専ら留学生を中心とした大学院生の教育に従事し、授業は基本的にすべてゼミ形式で行ってきたので、講義をするのはずいぶん久しぶりのことであった。受講生は50名近くだった。

私がこのテーマを選んだのは、私の専門がインドネシア近代史研究であることによるが、その中で「平和」の問題を考えようとするならば、やはり第2次世界大戦中における日本のインドネシア支配を取り上げて、それを通じて学生諸君に日本とアジアの関係を考えってもらうきっかけにしてみたいと考えたからである。それは、近年、第2次世界大戦中の日本のアジア侵略を免罪しようとする議論が一部で根強いこと、そしてそうした議論は歴史学研究的常識と大きくかけ離れ、戦争中の日本軍の行為に関する歴史的事実に対して意図的に目を瞑っているといった風潮があることとも関係がある。

授業の準備を始めたのは講義をおこなう10日ほど前からで、先ず日頃使っているパソコンの中に保存されている過去の講義ノート、講演録などのファイルの中から、使えそうな部分を引っ張り出して読み返してみた。ただ、それだけでは「平和」を考えるきっかけにするのには十分ではないと思われたので、高等学校の歴史教科書の中では、第2次大戦期の日本の対東南アジア政策、すなわち「南進」がどのように描かれているかを検討することとし、広大中央図書館に所蔵されている教科書を何冊か読んで抜き書きを作成し、これを講義の第1節にすることとした。この作業を通じて新たに発見できたのは、出版社によって記述内容にずいぶん差があること、また日本がなぜ「南進」政策をとったのか、日本の東南アジア各地の占領が現地社会にとってはどのようなものであったか、という点は、記述が著しく不十分だということだった。

次いで第2節では、「南進」が実は明治の初め頃から始まっていたこと、最初は日本国内で食いつぶれた人たちが東南アジアへ流出していったが、第1次世界大戦期を転機として東南アジア、とりわけインドネシアは日本の資本主義的近代工業にとっての輸出市場としての意味が大きくなり、それとともに進出する日本人の主流も、

従来の零細商人や「からゆきさん」から会社員や事務所員などに変わっていったことを述べた。そして、1930年代に入ると「南進」が日本の国策になり、それにともない「大東亜共栄圏」構想が登場したこと、これが1940年9月のフランス領インドシナ北部への日本軍駐留に始まる武力による「南進」に繋がっていくことを指摘した。

3節では、以上を踏まえて「インドネシア日本軍政は何だったか」という点を、軍政の目的、社会政策、経済政策をそれぞれの重要政策の文書の一部を引用して述べた。ここでは軍政の原則は、①治安回復、②重要国防資源の急速な獲得、③作戦軍の自活、の3つに置かれていること、日本はインドネシアをあくまでも「帝国領土」として保持しようとしていたこと、日本は様々な組織や運動を創り出して住民を軍政に協力させようとしたが、いずれも十分な成果を挙げることができなかったこと、日本の経済政策は、それまで自由な貿易を前提にしてきたインドネシア経済を「大東亜共栄圏」内に押し込めることによって大きく混乱させたこと、などを述べた。

最後に4節では、代表的な抗日反乱を取り上げて、日本軍政をインドネシアの人たちがどのように感じていたかという問題を考えるとともに、インドネシア独立に至る動きを概観した。

かなり盛りだくさんの内容であり、2コマ続きの平和科目の2コマ目であったので、学生諸君もしんどかっただろうと思われるが、授業終了後に提出してもらった「コメントシート」を読む限りでは、大半の受講生が授業の内容をたいへんよく理解してくれているようで、準備の甲斐があったとほっとしている。

4. 『日韓留学生予備授業の担当者』の交代要員について(お願い)

日韓予備授業担当幹事 渡邊一雄・山下英生

日韓留学生予備授業とは、韓国から広島大学理工系学部に入学者の高卒の国費留学生(10月来日、4月入学、約5~7名)が、日本の大学教育にはやく慣れてもらうための一環として、広島大学国際交流センターが実施している理系基礎科目(数学、物理、化学、生物)の授業です。

これに積極的に関わり良質な講義を提供することは、われら広島大学マスターズ広島(以下、HMH)にとってもプラスと考え、2010年以来、「生物」を渡邊一雄、「物理」を山下英生が担当責任者として現在に至っています。「化学」、「数学」は西条の広島大学マスターズ(HM)が担当。建前は自由交流)。

最初は様子が判らぬため幹事会主導で発足しました。

1. 授業は毎秋、各10コマ開講で、韓国と日本の、①教科内容の差異・漏れの修正、②用語、用語法の違いの補正などが建前ですが、何をどう教え伝えるかはある程度、担当責任者の裁量です(最終責任はHMH)。

2. 身分は「非常勤講師」で、広島大学・国際センターから発令され、手当は年齢に応じますが、おおむね1コマ(90分)あたり約10,000円です。我々の規約に基づいて、うち1割をHMHに納めて頂くことになります。

3. 学生は日本語(と英語)を一応理解し、態度、学力も優れており、ていねいに話せば楽しく講義を進められます。“単位”ではありませんが、出席と履修態度によって5段階評価(ほとんど5)して国際センターに修了報告し、学生は“認定”を得ます。

4. 教科「生物」では、ぼつぼつ交代を考えねばと担当者で話し合っています。

会員の専門(ないし関連)分野で、若い留学生のために講義をしてみようかとお考えの方は、講義可能領域などを添えて教科担当責任者(渡辺、連絡先は下記)または庶務幹事(植村、yuemura@hiroshima-u.ac.jp)までお知らせ頂けると幸いです。様子が知りたいとお考えの方も、渡邊 gifutoga@mocha.ocn.ne.jp までお問い合わせ下さい。打ち合わせの上、規約により幹事会を通してご依頼申し上げるかたちとなります。締切は設けませんが大学側の毎春の授業計画策定時時までは担当者名だけは提出の必要(1月ごろ)があります。

平成28年度はもう時間がないので、「これまで通り」と報告してあります。しかし来年あたりからはどなたか交代して頂けるといいなと、要員(とくに担当責任者)を探し始めています。

5. ちなみに、初年度は、担当責任者の渡邊が10コマ担当しましたが、翌年からは、渡邊一雄(もと総科)、設楽惣助(もと総科)、榊井秀雄(もと理学部)の3名の分担とし、内容は以下のようです。

* 渡邊一雄(もと総科)が、①ガイダンスと方針説明、教科「生物」の日韓大学事情の雑談、②分子細胞発生学(特にヒトの発生)、③医療、医学の基礎、⑩最後のまとめと簡易試験、の4コマ。

* 設楽惣助(もと総科)が、④微生物の世界とその汎地球的意義(実験も)、⑤生物の代謝生理の基礎、⑥微生物のいろいろと役割、の3コマ。

* 榊井秀雄(もと理学部)が、⑦植物の世界、⑧生態系と地球環境問題、⑨食糧の起源と食物文化、の3コマ。

6. 物理は、HMHが担当することになった2010年以来、米倉重州夫が、力学(5コマ)、山下英生が、電磁気学(5コマ)を担当してきましたが、平成28年度は以下のように担当者の交替を行います。松尾彰が、力学を、渡邊敏正が、電磁気学を担当します。物理の担当責任者は、渡邊敏正が行います。

以上、会員のご理解とご協力を頂けると嬉しいです。

5. 平成 28 年度広島大学マスターズ総会・懇親会に出席して

広島マスターズ広島代表幹事 井上研二

今年創設 10 周年を迎える広島大学マスターズの総会・懇親会が 6 月 4 日 16 時から JR 西条駅前の賀茂泉館 4 階泉ホールで開かれ、同マスターズの参与として出席して来た。中国地方はこの日から梅雨入りし、生憎の雨がしとしとと降る悪天候だったが、顧問の越智学長と東広島市長代理の下田副市長をはじめ会員総数 77 名中 29 名、協力会員 10 名中 2 名、友の会副代表 1 名と私の計 35 名が参加者の内訳である。私ともう一人の参与である下川聖二教育長は総会に出席予定だったが突然体調を崩され、救急車で病院に運ばれたが先にお亡くなりになったとのことで、総会は故下川教育長への黙祷から始まり、あとはお決まりの前年度の事業活動報告、会計報告、新入会員の報告、新年度の事業計画および予算案等の協議が行われたが、これらの報告を聞きながら考えたこと、すなわちわれわれのマスターズ広島との比較で注目すべき点や反省または参考にすべき点を記しておきたい。

もちろん、2 つのマスターズは同じ趣意のもとに設立された組織で、広島大学や地域社会への貢献を目的とする点では共通しているが、会員相互の交流と親睦という点でわが方は少し後れをとっているのではないかとの思いを新たにした。

まず第 1 に、わが方の今年度新入会員は 5 月末現在 2 名なのに対し、東広島の方は 8 名も入会したそうで特筆すべき点だと思う。会員総数ではわが方は 122 名に対し、東広島は 77 名でわが方が優位にあるのは言うまでもないけれども、今年 3 月の広島地区の退職者は 80 数名もいたにもかかわらず 1 名しか入会していないのはいかにも少なすぎると感じざるを得ない。

第 2 は、東広島市と広島市の規模の違いや特殊性はあるものの、東広島では市民講座を例年実施しており、この講座受講生を中心に「友の会」(会員数は 70 数名に上るとのこと)が出来ており、これがマスターズの例会や海外研修等の活動に少なからぬ力を発揮していると感じた。

第 3 は、わが広島では国内親睦旅行を企画しても全くの低調であるのに対し、東広島では海外研修を昨年の台湾旅行に続き、今年も 5 月に中国の大連・旅順旅行を 17 名もの参加者(わが方も宣伝活動を行ったが広島地区からの参加者はゼロ)が集い、成功裏に終わっている。わが方がこうした企画になぜ無関心なのか、その理由が今一度考えなおす必要性を感じている。

第 4 は、東広島では「ウォーキングの会」を継続中とのことだが、われわれも一人ひとり健康のためウォーキングをやっている人も少なくないはずで、毎日は無理でも、週に 1 回あるいは月に 1 回とかの頻度でもいいので、個別に歩くのではなく、数人規模の会員からスタートし、近くのウォーキングコースや時には近くの里山を歩き、ビール付きの昼食で打ち上げなどというのはいかがだろうか。

我々の 総会・懇親会を 8 月 27 日に控え、思いつくまま提案した次第です。

6. 第 7 回総会・懇親会の開催について(予告)

第 7 回総会・懇親会を 8 月 27 日(土) 16:00~18:00 に、ホテル・グランヴィア(広島駅新幹線口)にて開催します。詳細は追ってお知らせしますが、会員のみなさま、どうぞ奮ってご参加下さい。

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目 1 番 8 9 号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp